



2011年3月期 決算発表・説明会

2011年5月10日
日野自動車株式会社
代表取締役社長
白井 芳夫





将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。

インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公表の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。

同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公表してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービス)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。



本日お伝えしたいこと

- 1. 2010年度決算概要**
- 2. 東日本大震災の影響と今後の見通しについて**



1. 2010年度決算概要



1) 10年度の振り返り

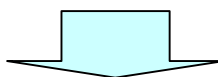
- 為替円高、材料費高騰、国内需要低迷等、厳しい経営環境

⇒収益改善策と新興国を中心とする海外販売の増加により、営業利益は大幅に改善

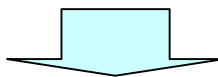
売上高 12,600億円 営業利益 300億円

(第3四半期決算時点見通し)

- 将来の成長に向けた構造改革元年として、ものづくり改革等の課題に着手（新工場等）



3/11 東日本大震災発生



震災の影響を除けば、目指していた利益レベルに回復



2) 販売の状況

需要増、販売努力により販売台数増

(単位:千台)

	10年度	09年度	増減	増減率
日 本	30	26	+4	+15.8%
海 外	83	61	+22	+35.1%
受託車	159	125	+34	+26.8%

[日本] 補助金効果等による総需要増と販売努力により、大中トラックで38年連続No.1、過去最高シェア34.9%を達成。
小型トラックでも過去最高シェア17.8%達成

[海外] 新興国を中心とする需要増を背景に、市場拡大努力により、アジア、中南米を中心に台数増。過去最高販売台数達成。

[受託車] ランドクルーザーブレードを中心に生産増



3) 売上・収益の状況

収益改善策・販売増で営業利益大幅改善するも、
震災の影響を受ける

(単位: 億円)

	10年度	09年度	増減	増減率
売上高	12,427	10,235	+2,192	+21.4%
営業利益	289	11	+278	25.5倍
当期利益	▲100	▲30	▲70	—

[売上高] 日本、海外とも販売増、トヨタ受託も増加

[営業利益] 材料費高騰、為替円高、震災の影響があるも、収益改善策、販売増により増益

[当期利益] 震災による災害関連損失、税金費用の増により減益



2. 東日本大震災の影響と 今後の見通しについて



1) 2011年度の環境認識

2011年の需要動向

- ・東日本大震災復興需要
- ・アジア新興国、資源国の成長に伴う旺盛な需要増

注視すべき動向

- ・部品調達、電力供給制約、原発問題の影響の長期化
- ・中東情勢や欧州財政問題
- ・円高、資材費高騰
- ・競争激化（中国車／韓国車の台頭、欧州勢の攻勢）

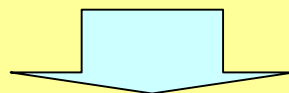


2) 2011年度の経営課題

(1) 供給制約下での生産最大化

早期生産正常化は商用車メーカーとしての社会的責任

- ・部品供給、電力供給制約の中で、可能な限り、早期に生産正常化を図る。



- ・復興に必要な車の供給責任を果たす。
- ・お客様の仕事を支え続ける。

(2) 将来の成長へ向けた課題の着実な推進

- ・グローバル生産体制構築の着実な推進（新工場）
- ・ものづくり改革の推進加速（新モジュール化）
- ・環境課題への対応（ハイブリット車の普及）

2. 東日本大震災の影響と今後の見通しについて

11/14



2) 2011年度の経営課題

(1) 供給制約下での生産最大化 ①

震災による生産への影響

- ・震災による工場（日野、羽村、新田）、設備等への直接の被害は軽微（但し、一部連結子会社の生産設備に被害あるも4月上旬復旧）
- ・部品供給への影響により、各工場で稼働を停止
- ・3月25日より、順次稼働再開
- ・部品供給状況を確認しながらの短縮操業を現在も継続中

震災後の

稼働再開時期

現在の稼働状況

大中型トラック

3月25日～

70%～80%

小型トラック

4月1日～

約75%

受託車(SUV)

4月18日～

約50%

2. 東日本大震災の影響と今後の見通しについて

12/14



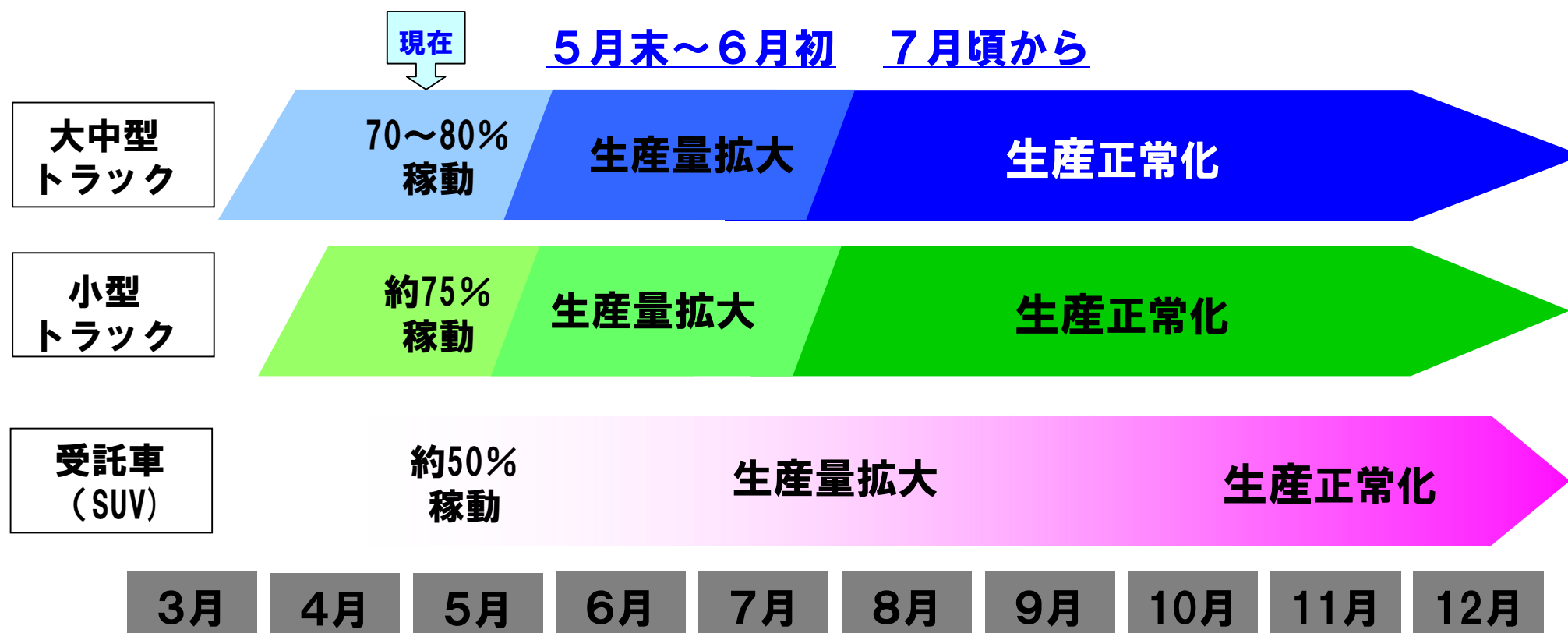
2) 2011年度の経営課題

(1) 供給制約下での生産最大化 ②

今後の生産見通し（大中小型トラック）

部品調達に目処 → 生産正常化へ

- ・5月末～6月初から、生産正常化に向け生産量を拡大
- ・7月頃から生産正常化の見通し。さらに前倒しを目指す。





2) 2011年度の経営課題

(2) 将来の成長へ向けた課題の着実な推進

成長目線 (2010年代半ば)

グローバル販売23万台・高収益確保

構造改革課題の着実な推進

◆古河新工場建設計画

・2012年のK D工場稼動開始に向け、 **計画通り** 推進中

◆ものづくり改革の推進

・新モジュール化の推進**加速**

◆新型小型トラックの発売

・地域適格のグローバルモデル

・ハイブリッド車には新システム搭載

・今夏**予定通り**日本で発売。以降順次
海外展開 (オーストラリア、香港、米国etc.)



北米仕様 新小型トラック
(ハイブリッドモデル)



2011年度 日野グループスローガン

HINO

世界中のお客様のために

HINO

**The Global Brand
For All Customers!**

